



Challenges for Peacebuilding in Asia アジアにおける平和構築の課題

The question of how to restore peace after conflict and civil war, and otherwise facilitate sustainable forms of stability, has now become a global issue whose significance surpasses that of local issues. Government dysfunction and failure results in the violation of basic human rights and loss of dignity of people in a given area. Moreover, through unexpected large-scale outbreaks of refugee incidents and the diffusion of terrorist attacks, disorder can at times easily cross national borders. Therefore, issues such as nipping such disputes in the bud and planning and implementing peacebuilding efforts during post-war transition periods are concerns shared by the international community as a whole. In the meantime, Asia, despite including former places of conflict, is, as a whole, breaking away from stagnation and moving toward prosperity and economic growth, although several serious problems linger in some areas. In this symposium, reviewing the peacebuilding efforts in Asia, and their trajectory and outcomes, we will discuss how the international community and Japan, in particular, should take part in future issues, specific efforts for the future, and their prospects.

紛争、内戦後に平和をいかに回復し、その地に持続可能な形で安定をもたらせるのかという問いは、今や局地的な問題にとどまらないグローバルな問題となりました。統治の機能不全と失敗は、当該地域において人間が人間として生きるために享受されるべき基本的な権利、尊厳を喪失させるだけではありません。想定を越えるような大規模な難民の発生、あるいは越境的なテロ活動の拡散などを通じ、混乱は容易に国境を越える場合もあります。したがって、いかにして紛争の芽を摘むのか、また紛争後移行期の平和構築をどう設計、履行していくのかという問題は国際社会共通の問題であります。このような認識が国際的に醸成される中で、かつての紛争地を含むアジアは、地域によっては深刻な問題を依然抱えつつも、全体としては停滞から離脱し、繁栄、経済成長の歩みを進めています。本シンポジウムでは、アジアにおいて平和構築がどのようになされてきたのか、その軌跡、成果を整理するとともに、国際社会として、とりわけ日本として今後問題にどのように関与していけばよいのか、将来に向けた具体的な取組みとその展望について議論します。

Date & Time: July 30th 2016, 10:00 - 16:45

*Venue open 9:30

Venue: Higashi-Senda Innovative Research Center M401, Hiroshima University

*Admission free. 100 seats available.

Language: English / Japanese (with simultaneous interpretation)

Hosted by : Institute for Peace Science, Hiroshima University

*There is a pay parking lot. However, because the parking spaces are limited, please use public transport to the venue.

【日時】2016年7月30日(土)

10:00-16:45 ※9:30開場

【場所】広島大学

東千田未来創生センターM401

※入場無料(先着100名)

【言語】英語 / 日本語(同時通訳付)

【主催】広島大学平和科学研究センター

* 東千田キャンパスの駐車場は有料です。また、駐車できる台数に限りがありますので、公共の交通機関でお越し下さい。

Seat availability is limited so please apply by e-mail or phone if you are interested in attending. But, You can join in the symposium without reservation, if the seats are left. 参加ご希望の方は、下記内容をFAX(送信表不要)、またはメール(件名を「シンポ申込み:氏名」とする)にて事前にお申し込み下さい。(JFax用) 定員を超えた場合、お断りさせて頂くことがあります。また、席に余裕がある場合は、当日参加も受け付けます。

Name ご氏名	Please check which part you will attend. 参加ご希望の部にレを付けてください。	<申し込み先/Contact Address> 広島大学平和科学研究センター 〒730-0053 広島市中区東千田町1-1-89 Institute for Peace Science, Hiroshima University Higashisenda-machi 1-1-89, Naka-ku, Hiroshima 730-0053 TEL : 082-542-6975 / FAX : 082-245-0585 E-mail : heiwa@hiroshima-u.ac.jp URL : http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/
Company ご所属	<input type="checkbox"/> Session 1/ I 部 <input type="checkbox"/> Keynote speech / 基調講演 <input type="checkbox"/> Session 2/ II 部	
Tel or E-mail		

Challenges for Peacebuilding in Asia アジアにおける平和構築の課題

10:00～10:15 Opening Remarks/開会の言葉



Mitsuo Ochi
越智 光夫
広島大学長

1952年愛媛県今治市生まれ。広島大学医学部卒業後、整形外科に入局し、ヨーロッパ留学などを経て、2007～11年広島大学病院院長、2008～11年理事、2011～12年理事・副学長、2012～15年学長特命補佐を歴任。2015年4月より広島大学学長。2010年に文部科学大臣表彰「科学技術賞」、2014年に産学官連携功労者表彰「厚生労働大臣賞」を受賞。医学博士。

10:15～12:15 Session 1: Experiences in Peacebuilding in Asia
第I部：アジアにおける平和構築の経験



Mihoko Kumamoto
隈元 美穂子
UNITAR広島事務所
所長

1992年米国ウエスタンバージニア大学心理学部卒業。1992-99年九州電力企画部国際関係担当として勤務し、数多くの海外研修に取り組む。その後、米国コロンビア大学修士課程にて開発経済を学ぶ。2001年から国際連合開発計画に勤務。ベトナム事務所、ニューヨーク本部などを経てサモア太平洋事務所にて紛争、復興、環境、気候変動担当の事務所代表代理を務める。2012年より国際連合開発計画インドネシア事務所にてシニアアドバイザーとして勤務。2014年より現職。



Daisaku Higashi
東 大作
上智大学
グローバル教育
センター准教授

1993～2004年、NHK報道局ディレクター。NHKスペシャル「我々はなぜ戦争をしたのか〜ベトナム戦争・敵との対話」(放送文化基金賞)「核危機回避への苦闘〜韓国、米朝の狭間で」「イラク復興 国連の苦闘」(世界国連記者協会銀賞)等を企画制作。2009～10年、カブールにおいて、国連アフガニスタン支援ミッションの和訳・再統合チームリーダーを務める。2012年8月ブリテイッシュコロンビア大学から博士号取得。2012～14年国連日本政府代表部公使参事官。2011～16年東京大学准教授を経て、2016年4月より現職。



Mari Katayanagi
片柳 真理
広島大学大学院
国際協力研究科
教授

1997年8月～1998年12月、国連東スラボニア暫定統治機構人権担当官、民生担当官。2001年に英国ウォリック大学より法学博士号取得。2001～2003年、在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本大使館専門調査員。2004年4月～2009年10月、ボスニア・ヘルツェゴビナ上級代表事務所政治顧問。JICA研究所主任研究員を経て2014年4月に広島大学准教授。2015年4月より現職。著書に*Human Rights Functions of United Nations Peacekeeping Operations* (Martinus Nijhoff Publishers, 2002)。平和維持、平和構築、紛争予防、紛争解決論の分野で人権の視点から研究を続けている。



Moderator/モデレーター
Tatsuhiro Yamane
山根 達郎
広島大学大学院
国際協力研究科
准教授

1970年生まれ。専門は国際関係論(平和・安全保障研究、特に武力紛争や平和構築)。2005年に大阪大学大学院国際公共政策研究科(OSIPP)で博士号(国際公共政策)取得。広島大学大学院国際協力研究科助教、その後、大阪大学未来戦略機構特任講師などをを経て現職。その他、国連日本政府代表部専門調査員、特定非営利活動法人Association of Medical Doctors in Asia(AMDA)「スリランカ医療とプロジェクト」現地統括、ヘルシンキ大学客員研究員なども務めた。

12:15～13:30 Lunch break/お昼休憩

13:30～14:10 Keynote speech/ 基調講演



Udagawa
Satoru
宇田川 悟
作家

1947年東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。作家。パリに長く暮らしフランスの社会・文化・食文化に詳しい。フランス政府農功労章シュヴァリエを受賞。ブルゴーニュワインの騎士団、シャंबरニュ騎士団、コマンドリール・ポルドー、フランスチーズ鑑評騎士の会などに叙任。著書に『食はフランスに在り』(小学館ライブラリー)、『パリの調理場は戦場だった』(吉本隆明「食」を語る)(共に朝日新聞社)、『ニッポン食いしんぼ列伝』(小学館)、『ヨーロッパワインの旅』(ちくま文庫)、『フランス美味の職人たち』(新潮社)、『欧州メディアの興亡』(リベルタ出版)、『フランスはやっぱりおいしい』(TBCブリタニカ)、『フランスワイン紀行』(ヨーロッパ不思議博物館)『書齋の達人』『書斎探訪』(共に河出書房新社)、『VANストーリーーズ-石津謙介とアイビーの時代』(集英社新書)、『最後の晩餐一死ぬまえに食べておきたいものは?』(晶文社)、『フレンチの達人たち』(幻冬舎文庫)、『フランスワインとっておきの最新事情』(講談社+α文庫)、『フランス料理は進化する』(文春新書)、『超シャンパン入門』『東京フレンチ興亡史-日本の西洋料理を支えた料理人たち』(共に角川oneテーマ21)など多数。近著に『料理人の突破力-石鍋裕・片岡護・小室光博が語る仕事と生きかた』『覚悟のすき焼き一食からみる13の人生』(共に晶文社)、『ホテルオークラ総料理長小野正吉-フランス料理の鬼と呼ばれた男』(柴田書店)。訳書に『旅人たちの食卓-近世ヨーロッパ美食紀行』『フランス料理と美食文学』(共に平凡社)、『父親はなぜ必要なのか?』(小学館)、2014年にノーベル文学賞を受賞したハトリック・モディノ著『カトリクスとパピ』(ジャン=ジャック・サンペ 絵/講談社)など。

14:10～14:30 Coffee break/休憩

14:30～16:30 Session 2: Challenges and Prospects for Peacebuilding in Asia
第II部：アジアにおける平和構築の課題と展望



Lt. Gen. Daniel Leaf
Director,
Daniel K. Inouye
Asia-Pacific
Center for Security Studies

ダニエル・イノウエ・アジア太平洋安全保障研究所長。1974年ウィスコンシン大学マディソン校卒業(政治学)、同校の米空軍ROTCプログラム修了。米陸軍指揮幕僚大学修士(軍事学)。米太平洋軍(PACOM)副司令を最後に33年におよぶ軍務を終え、2008年に退役。2009～11年には、米空軍科学顧問会議委員も務めた。ノースロップ・グラマン・インフォメーションシステムズ社副社長を経て、2012年より現職。



Anthony Bubalo
Lowy Institute for
International Policy
Deputy Director
and Research Director

オーストラリアのシンクタンクであるローウィ国際政策研究所副所長。研究担当のディレクターとして、同研究所の研究成果のマネジメントを行っている。また、イスラム主義、民主化、テロ、エネルギー安全保障を含む、中東の広範な問題に関する研究を企画、推進している。The Australian, The Age, The Sydney Morning Herald, The Financial Times, Ha'aretz, 朝日新聞などの内外の新聞メディアや、The American Interest, Foreign Policyなどの有力論壇誌に寄稿している。



Mari Yamashita
山下 真理
国連平和構築支援
事務所次長

東京都出身。1988年上智大学法学部国際関係法学科卒。1990年に米フレッチャー法律外交大学院修了後、国連事務局情報収集調査室の政務官補佐として国連に加わる。1993年から、国連事務局政務局にて選挙支援、アフリカ、東南アジア担当政務官などを歴任。アルメニア、クワチア、ネパールなど現場派遣も含め、国連でのキャリアは25年に及ぶ。2010年より国連事務局政務局にて選挙支援、アフリカ、東南アジア担当政務官などを歴任。アルメニア、クワチア、ネパールなど現場派遣も含め、国連でのキャリアは25年に及ぶ。2010年より国連事務局政務局にて選挙支援、アフリカ、東南アジア担当政務官などを歴任。2012年より国連本部政治局アジア太平洋部長。2015年より現職。



Moderator/モデレーター
Tsuneo Nishida
西田 恒夫
広島大学平和科学研究
センター長

1970年に東京大学法学部卒業後、外務省入省。1999～2001年にロス・アンジェルス日本国総領事、2001～02年経済協力局長、2002～05年に総合外交政策局長、2005～07年に外務審議官(政務)、2007～10年に特命全権大使カナダ駐劄兼国際民間航空機関日本政府代表、2010～13年に国連日本政府常駐代表特命全権大使などを歴任。2014年4月より広島大学平和科学研究センター長(同兼任教授)。

16:30～16:45 Closing Remarks/まとめ・閉会の言葉



MC/司会
Asami Ogura
小倉 亜紗美
広島大学平和科学研究センター助教

2009年広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程修了、博士(学術)。2009～10年広島大学総合博物館客員研究員、2010～14年広島大学国際センター研究員を経て、2014年4月より現職。専門は、環境平和学、環境保全(ESD, フェアトレードを含む)。

This symposium is partly subsidized by Hiroshima University under the "Program for Promoting the Enhancement of Research Universities."
本シンポジウムは、広島大学研究力強化促進事業からの補助を受けています。

【会場地図】広島大学東千田キャンパス内

